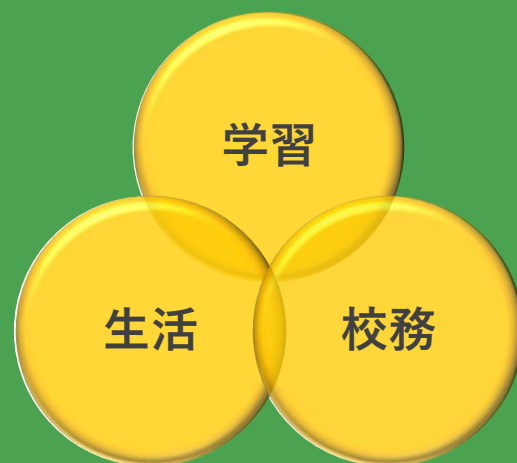


未来の担い手を育てる  
学校施設づくり  
(教室等の整備水準)

創造的な学校空間

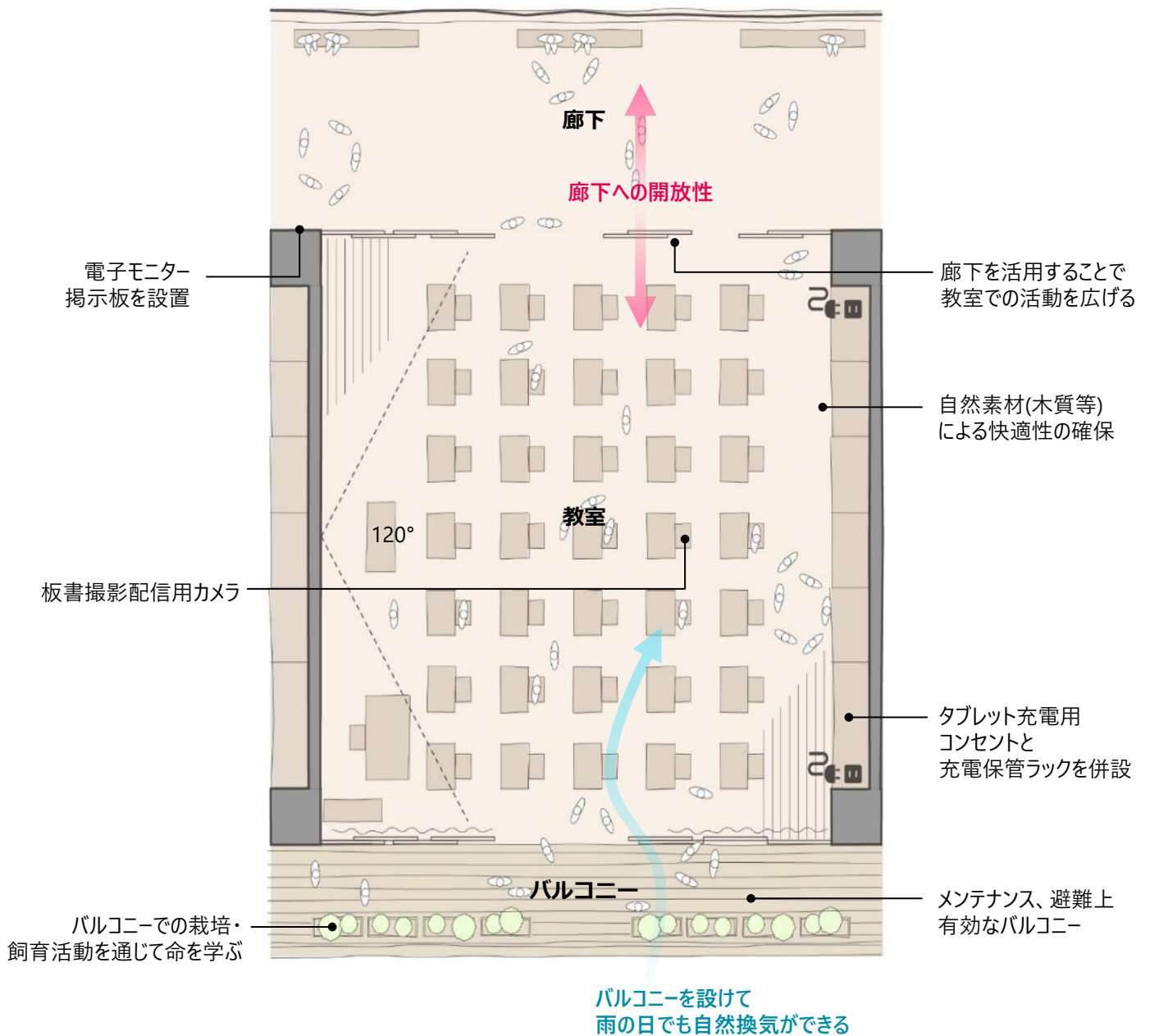


# 教室

～居心地が良い学習空間と可動性を持たせた整備～

## 自然素材（木質等）の利用、バルコニーからの自然換気、廊下への開放性を確保

- バルコニーは安全性、メンテナンス性を高めるものとし、屋外学習の場に活用する。
- 教室と廊下の間は扉とし、可動性や開放性を持たせる。
- 授業時等の集中力への配慮として、音環境に配慮した仕上げ材を採用する。
- 掲示板は電子モニターを採用する。



多様な利用に対応した教室 イメージスケッチ

# 教室

～従来の教室の枠を超えた学びの場を整備～

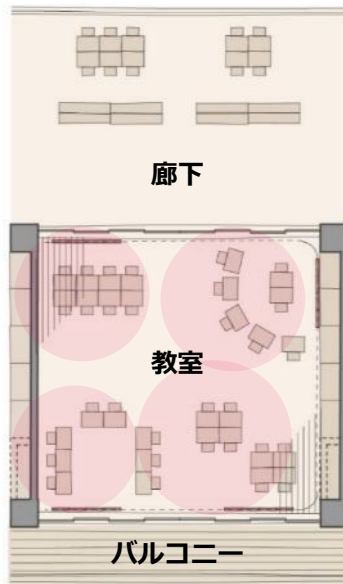
## 様々な人数や形態に応じた多様な学びを展開するため柔軟に拡張できる教室

- 一斉学習のみならず、協働的な学習等を想定した4面ホワイトボード(可動式)等を設える。
- 廊下を活用できるように、教室と廊下の間仕切りは可動式とし、開口部を十分確保できるようにする。
- 廊下はコミュニケーションを促す生活空間として教室と一体的に活用し、多様な活動を展開するスペースとする。



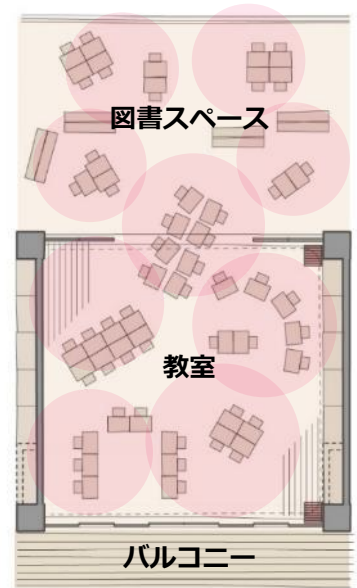
### 一斉学習・個別学習

ホワイトボード収納時は  
ロッカーを開放する



### 協働的な学習

ホワイトボードを周囲に移動することで  
グループでの学習に適した空間となる



### 学習空間の拡張

廊下や図書スペースを  
一体的に利用した学びの場



通常利用時はホワイトボードを畳んでロッカーはオープンに利用  
地域開放時はホワイトボードを閉めて施錠し、ロッカー内の児童・生徒の私物を守る

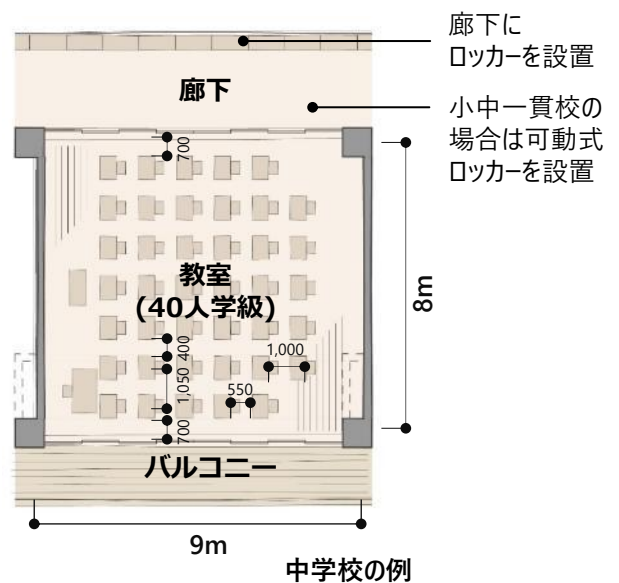
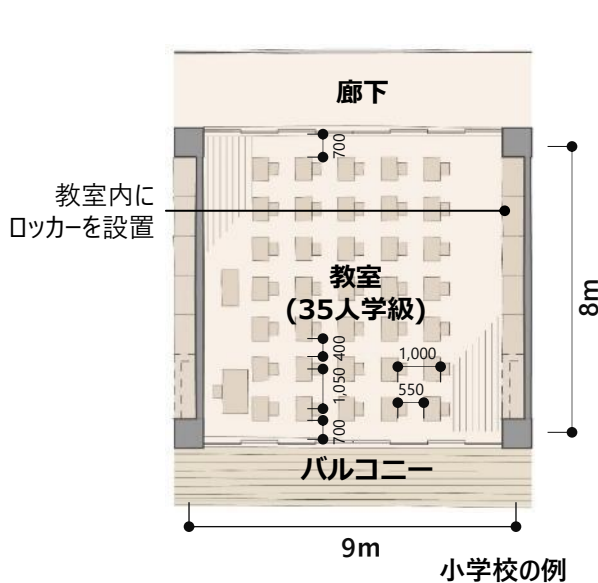
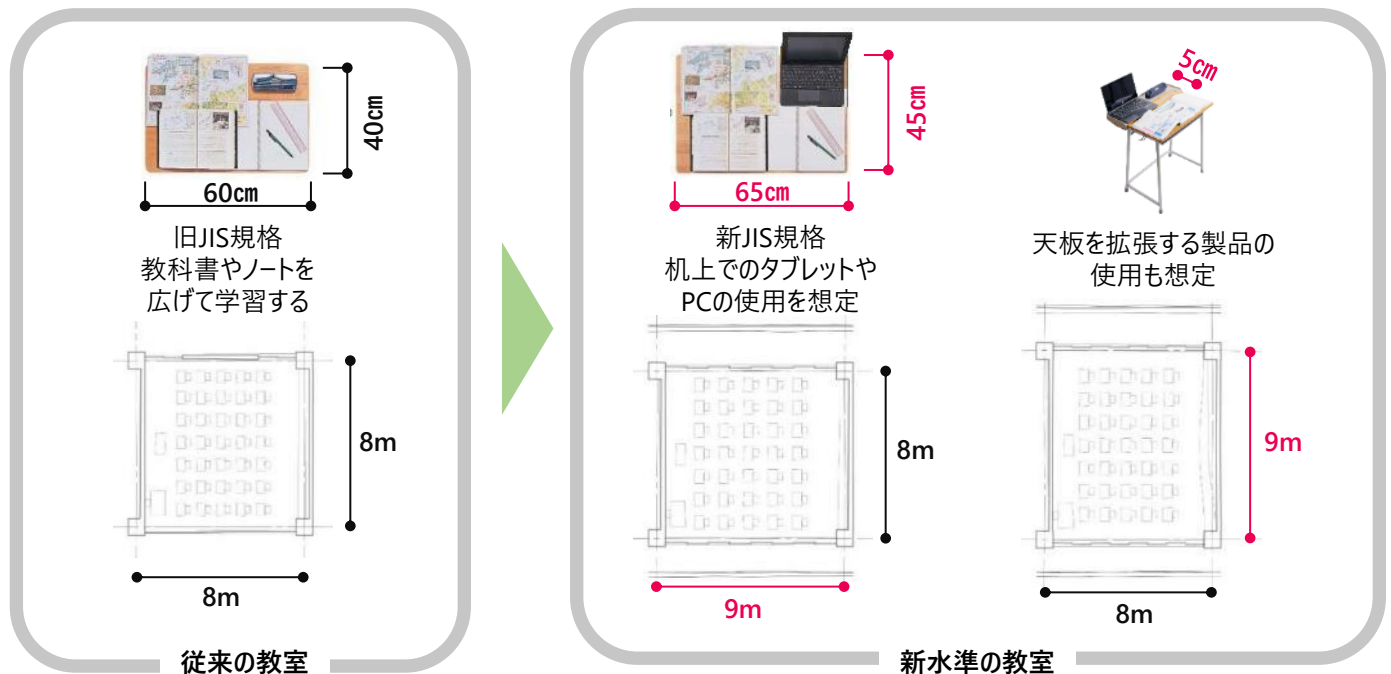
可動式ホワイトボード建具の工夫

# 教室

～ 1人1台タブレット端末等にも対応したゆとりのある教室の整備～

小学校・中学校とも、タブレットの利用や教科書のサイズの規格に合わせた机の大きさ（新JIS規格 65×45cm）を踏まえ、以下を目安とする

- 小学校：8m×9m以上を確保する。  
：ロッカーは教室内に設け、上部の掲示板を含めたロッカー全面を覆う建具等、施錠可能なものとする。
- 中学校：8m×9m以上を確保する。  
：ロッカーは廊下に設け、個別で施錠が可能なものとする。  
ただし、教室内に設ける場合には教室を9m×9mとする。
- 小中一貫校の場合は、教室を小・中学校で兼用するため可動式のロッカーを設置する。
- 教員用の棚は施錠が可能なものとする。

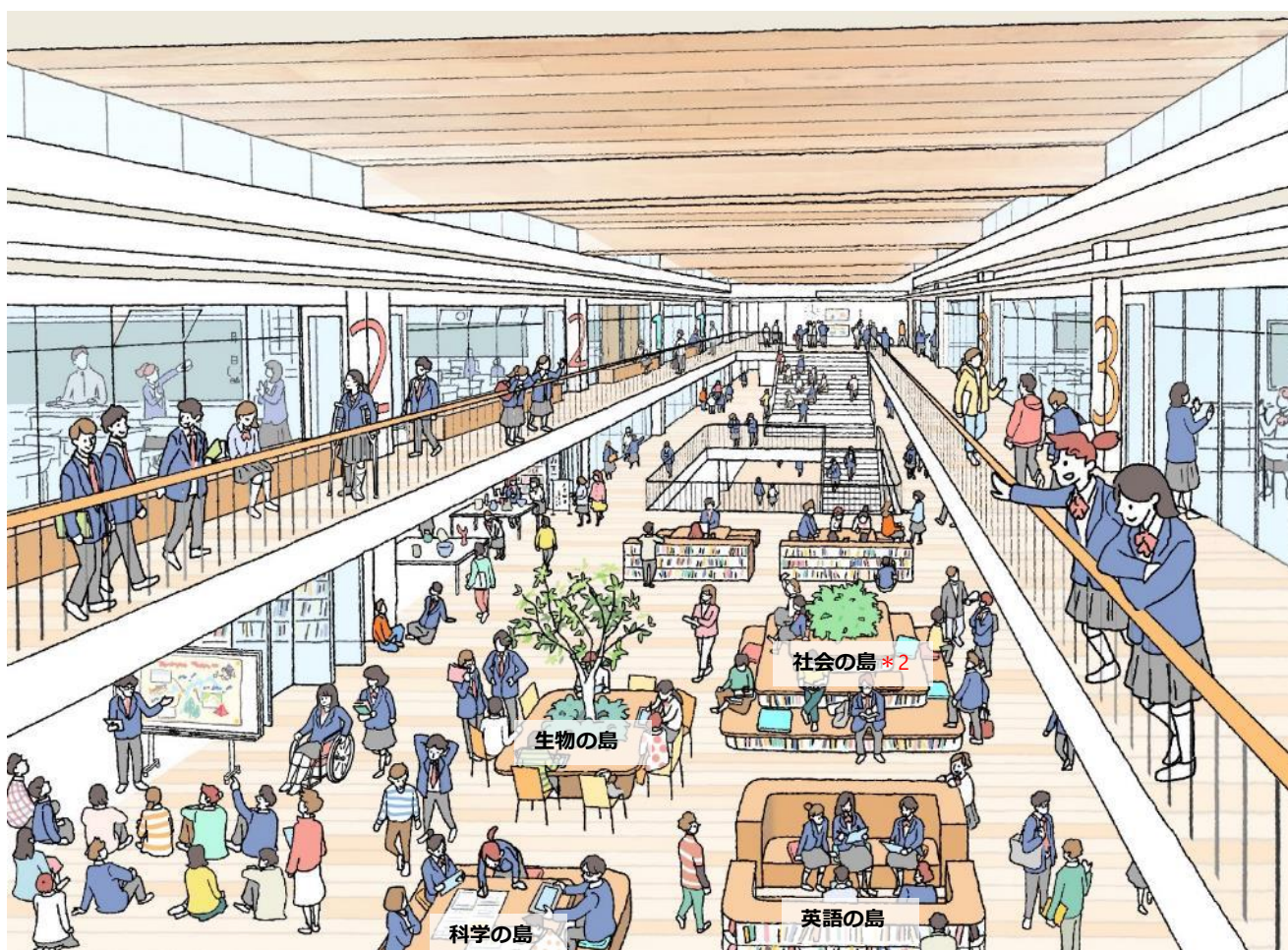


# ラーニング・コモンズ

## ～新しい学習スタイルを支援する学びの空間～

### 児童・生徒が主体となった協働的な学習や、探究的な学習等、多様な学びを実現するラーニング・コモンズ \*1

- 対話や発表をしながら学習を進めるための空間を整備する。
- 開架書庫や閲覧スペースに加え、協働的な学習や読み聞かせができる机やモニター、個別学習ができる個人ブース、カウンターを設ける。
- 書架の高さは児童・生徒の目線に合わせた見通しの良さに配慮する。
- 少人数学習も含め、多様な学習活動に対応できるオープンスペースや家具を工夫する。
- 学校図書館とPCスペースとを融合し、読書センター・学習・情報センターとしての機能を持たせる。



自主的・主体的深い学びの中心となるラーニング・コモンズ イメージスケッチ

#### \*1：ラーニング・コモンズ

複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスも提供する。（文部科学省HPより）

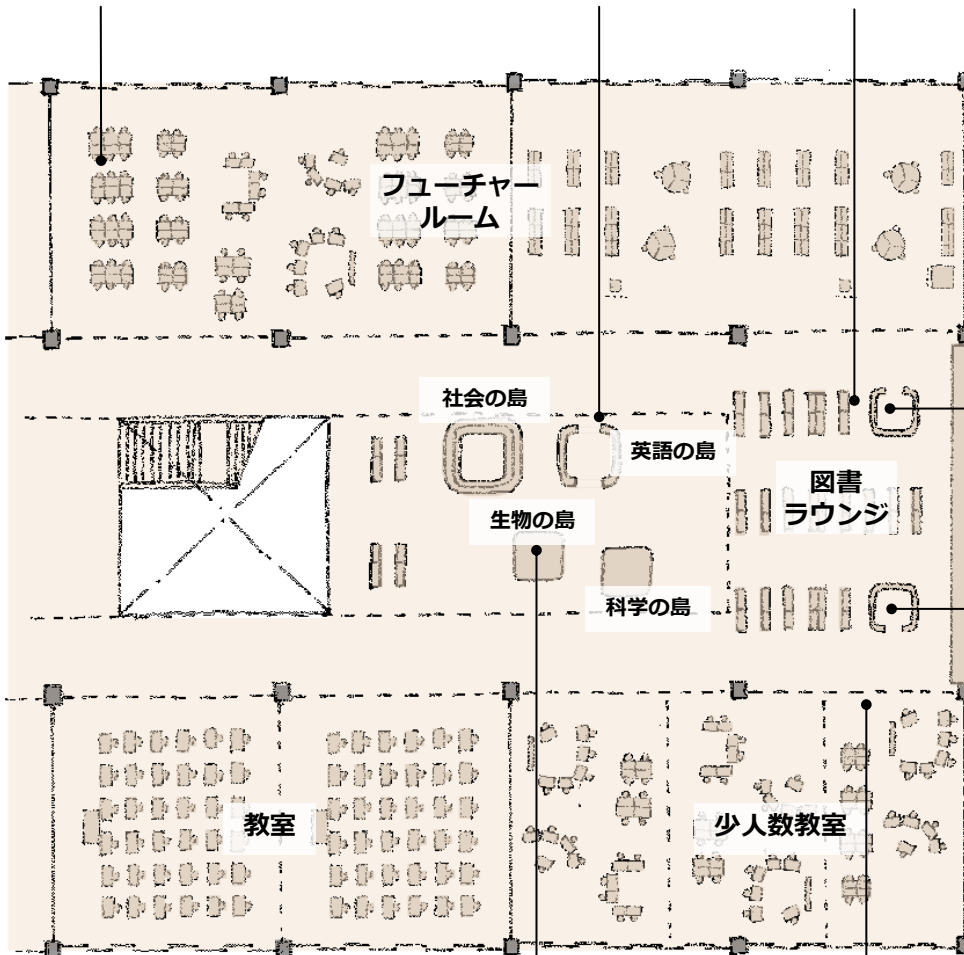
#### \*2：「〇〇の島」各教科の専門教材や図書が集められたスペース

## 様々なタイプの教室の配置



フューチャールーム イメージスケッチ

高性能PC、STEAM\*1教材  
 イングリッシュルームのように常に英語でコミュニケーションする場を設ける  
 書架の高さは児童・生徒の目線に合わせた見通しの良さに配慮する



囲われたスペース  
 落ち着いて深い  
 学びを育む



実際の落ち着いたカウンター席  
 イメージスケッチ

ラーニング・コモンズ 平面イメージ

協働的な学習に対応した  
 机やモニターを設置

建具を開放することで  
 一体的に利用

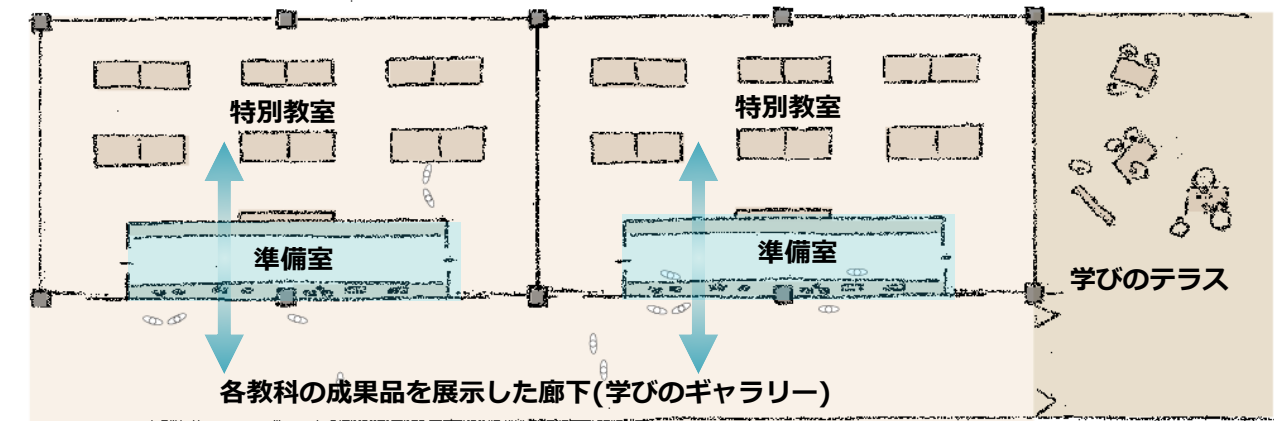
\*1 : STEAM  
 Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、  
 Art (芸術)、Mathematics (数学) の頭文字をとったもの。  
 STEAM教育では、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決  
 に生かしていくための教科等横断的な学習を推進する。

# 特別教室

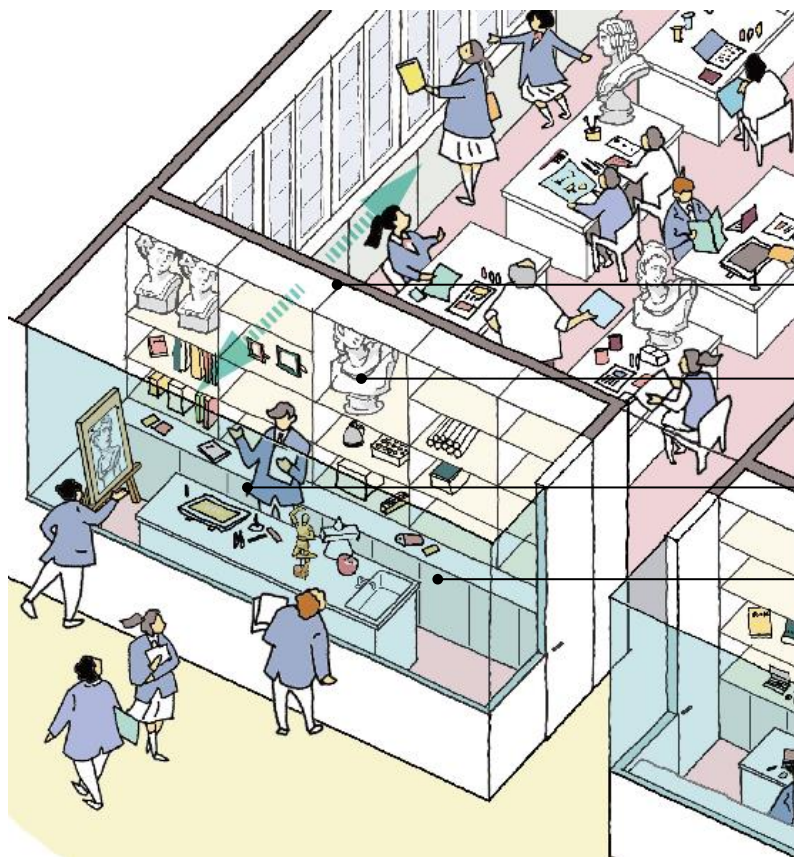
～興味・好奇心を喚起し、主体的に学習に取り組む子供を育てる空間整備～

## 教室にとどまらず、廊下や準備室、校内・屋外等、空間全体を学びの場として整備

- 特別教室は、準備室も含めて、廊下からガラス越しに見学できたり、地域の人々の活動を見ることを可能にし、子供たちの興味を引くような設えとする。
- 屋外テラスや地上のスペースに近接できる時は、学びの空間を外部に設け、より多様な活動を可能にする。
- 菜園や飼育小屋等、各校で特色ある生命とのふれあいの場をつくる。
- 学校施設開放の利用動線と児童・生徒の動線を分け、セキュリティを確保する。



ガラス張りの準備室と学びのギャラリーやテラスを持った特別教室 イメージスケッチ



廊下から特別教室内の活動風景が見える

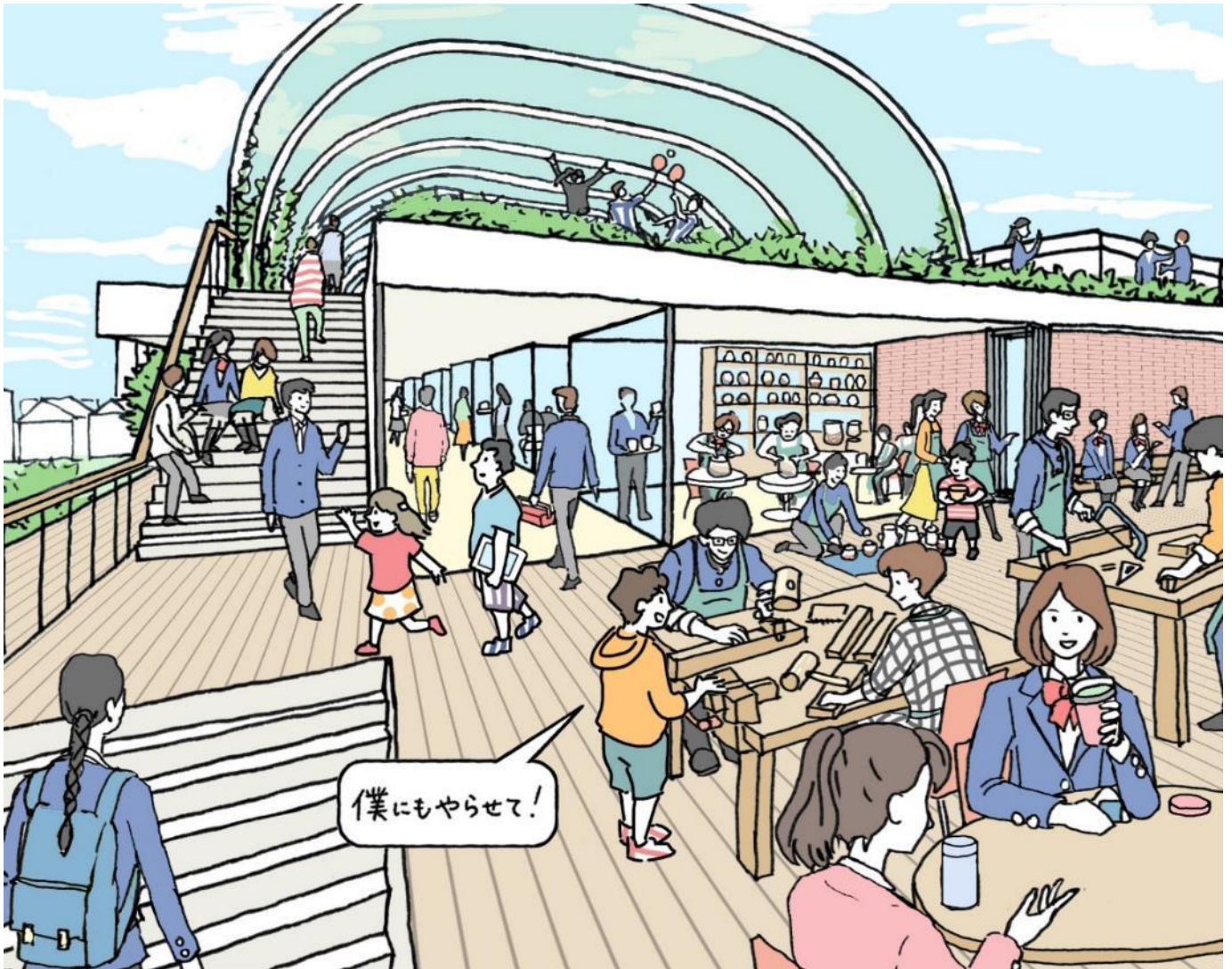
特別教室で使用する教材や道具

ガラス張りの準備室

特別教室と準備室のどちらからでも出し入れできる棚

ガラス張りの準備室 イメージスケッチ

## 様々な活動に対応して自由に場所を選べる空間を設置



陶芸や工作に便利な屋外テラス 地域交流時イメージスケッチ

# 特別教室

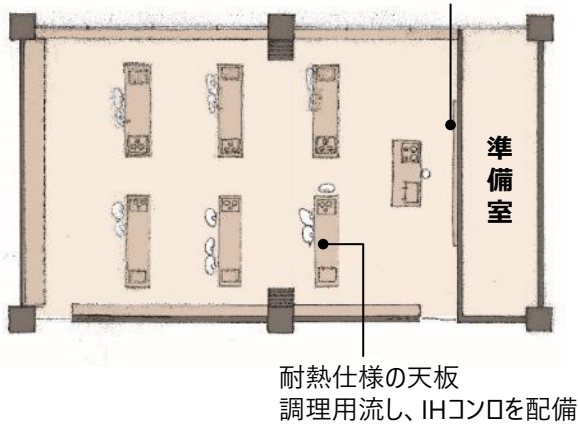
～多目的に複数の用途に対応した教室整備～

## 教室の有効活用を図るため、特別教室の多機能化（兼用・共用）を図る整備

- 特別教室は、他の機能との兼用や地域での利用を想定したつくりとする。
- 他の機能と兼用する場合は、家庭科室の流しやコンロ等に蓋をする等、様々な利用できるつくりとする。  
(家庭科室 ↔ 被服室 ↔ 多目的室利用等)

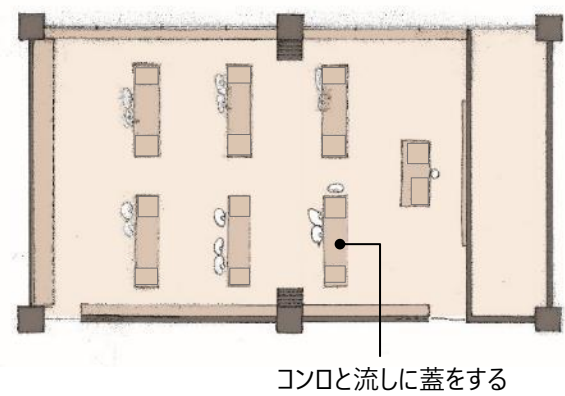
### 家庭科室として利用

ホワイトボードを設置し衛生面に配慮



### 被服室として利用

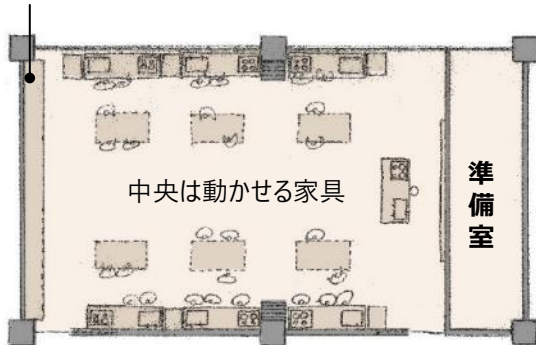
コンロと流しに蓋をする



特別教室用の固定家具を中央に設置し、家庭科室と被服室を兼用可能とした例

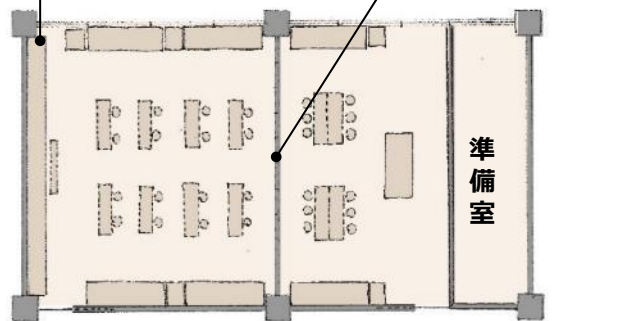
### 特別教室として利用

特別教室用の固定家具（流し・コンロ）を壁際に



### 多目的室として利用

固定家具（流し・コンロ）に蓋をして  
教室内をフレキシブルに活用



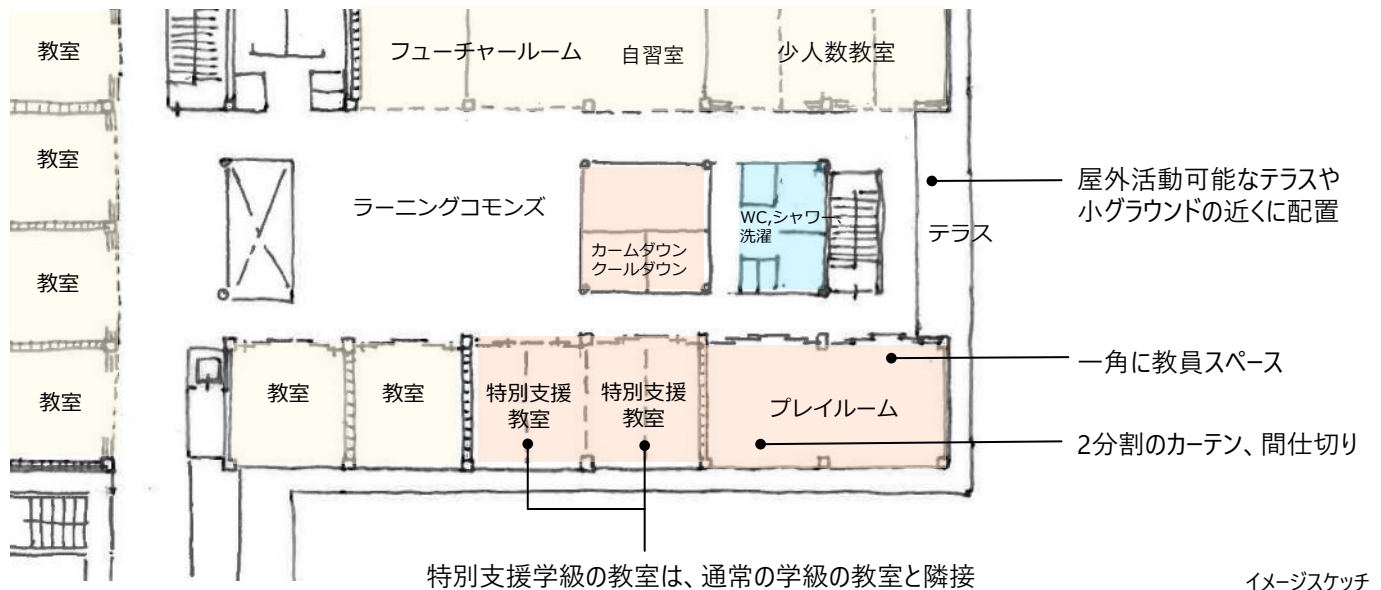
特別教室用の固定家具を壁側に設置し、さらに他機能との兼用を工夫した例

# 特別支援学級

～交流及び共同学習を推進し、日常的に交流が図られる教室配置～

## 集団や個別での学習活動がしやすい一体的な学びの場の整備

- 生活の中で自然な交流が育まれるよう、通常の学級と隣接して設ける。
- 人数に応じて適切な広さに可動間仕切りで分割できるようにする。
- 教室近くにカームダウン・クールダウンのための静養室を設ける。
- 屋内・屋外に、安心・安全に学習や運動ができるスペースを設ける。
- 多目的室の一角に教員作業スペースを設け、目が行き届きやすく見守りやすいつくりとする。
- トイレや更衣室は、手すりの位置や高さの変更等様々なニーズに対応できるつくりとする。
- 災害時に備え、安全に水平避難ができるようバルコニーや階段の位置に配慮する。



イメージスケッチ

近年では、障がい、経済上の理由、国籍などに関わらず、「共に育つ」ことを基本理念として、物理的・心理的なバリアフリー化を進め、インクルーシブな社会環境の整備が求められている。

障がいの有無に関わらず、子供たちが一緒に学んでいくためには、多くの関係者の理解促進が重要であることから、昇降口や特別支援学級の配置等により動線を工夫するなど、児童生徒が円滑に移動できるだけでなく、自然に交流が生まれる計画とすることが重要である。

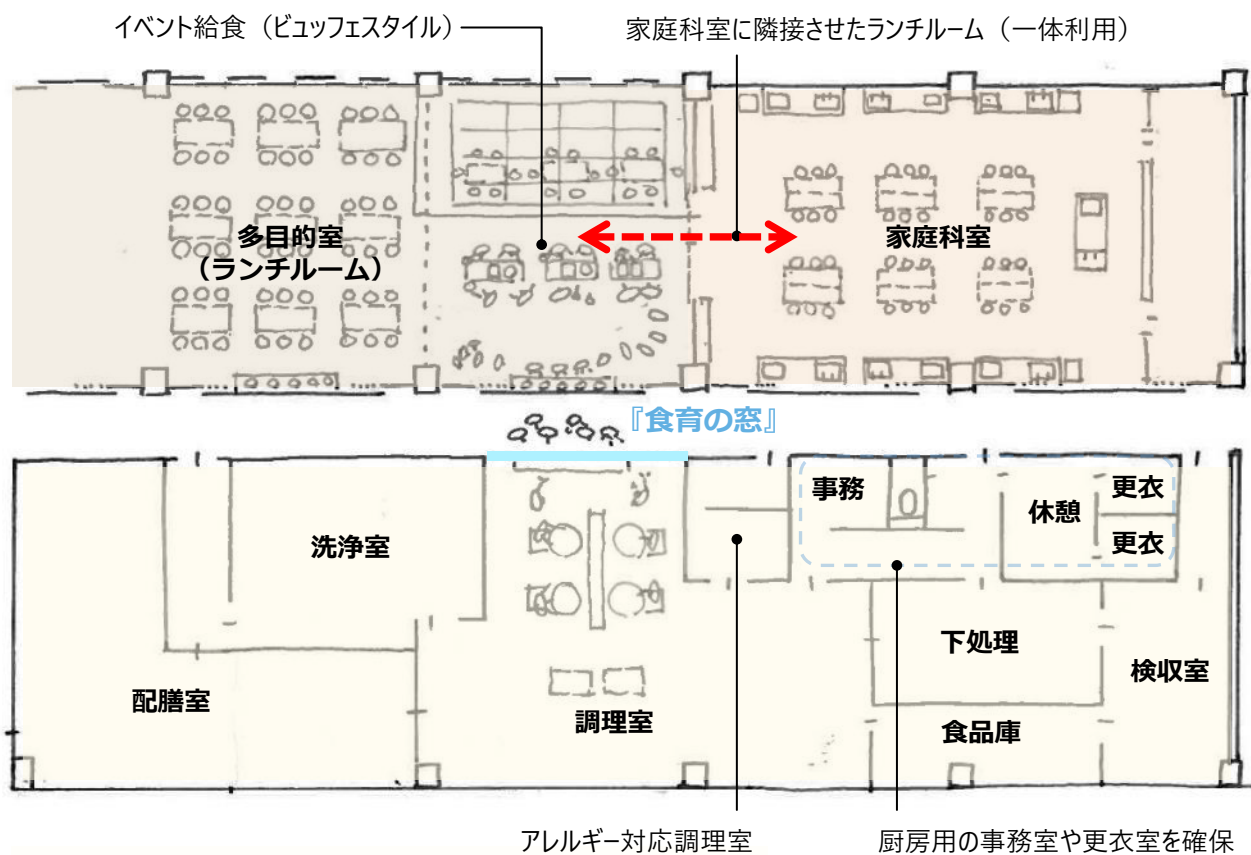
施設のバリアフリー化等を一層進めていくとともに落ち着いて勉強ができるスペースやカームダウン・クールダウンできるスペース、医療的ケアの実施に配慮されたスペースを確保することも有効である。

これからの小・中学校施設の在り方について（文部科学省）

# ランチルーム・給食室等 ～交流を育む「食育」の場の整備～

## 渋谷ワンドフル給食やイベントを楽しむランチルーム、 家庭科室と連携した食育ゾーンを整備

- 食育のために、家庭科室・多目的室（ランチルーム）・見える給食室を隣接させる。
- 食事を通して、児童・生徒の異学年交流、地域との交流イベント等、多様なコミュニケーションを図ることのできる場とする。
- 家庭科室や多目的室は、地域利用や防災拠点活動に使いやすい配置とする。



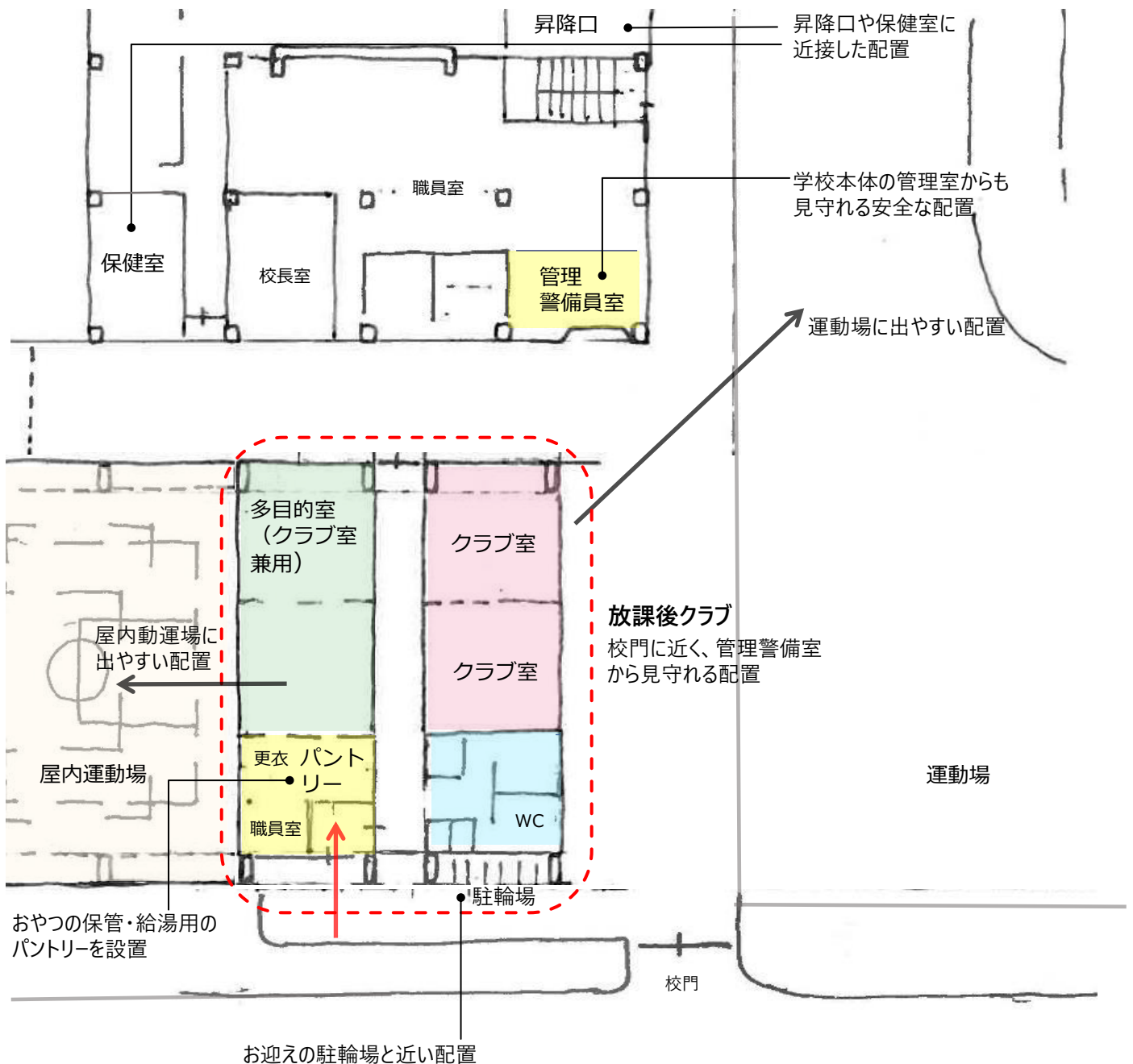
『食育の窓』から今日の給食調理風景が見え、調理員とコミュニケーションできる工夫 イメージスケッチ

# 放課後クラブ

～安全・安心で、自由に学び、豊かな放課後を提供する居場所を整備～

## 放課後の児童・生徒の安全・安心な居場所を整備

- 放課後クラブは、運動場や屋内運動場のそばに設け、放課後クラブの職員室から見守りやすい配置とする。
- お迎えの動線、帰宅のしやすさに配慮して、駐輪場・校門の近くに配置する。
- 放課後クラブの活動が、他の学年の静かな授業環境の妨げにならないよう配置に留意する。
- 春・夏・冬休みにも学校施設を利用できるよう動線に配慮する。
- 放課後クラブ内にクラブ室のほか、運営事業者のためのスペースを確保する。

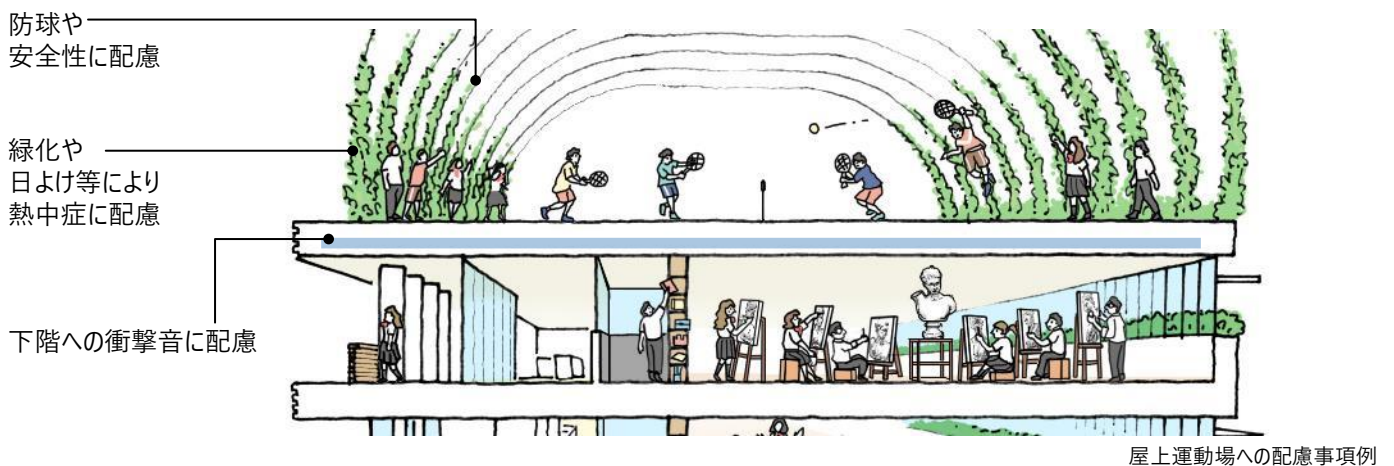
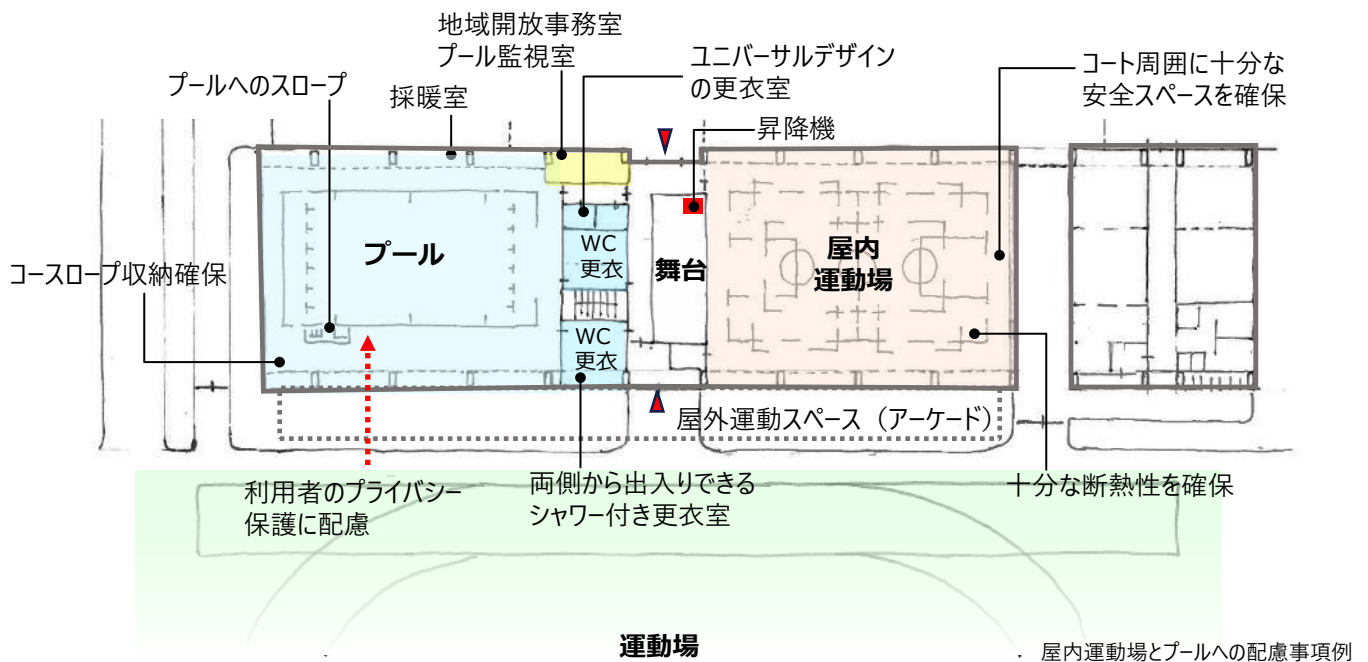


機能的で安全な動線・配置計画の例 イメージスケッチ

# 運動場、屋内運動場、プール ～運動場等の大きさを最大限確保～

## 児童・生徒が伸び伸び活動し、『地域のスポーツセンター』にもなる運動スペースを確保

- 運動場は日当たりの良い場所に最大限の広さを確保する。
- 近隣への騒音、防球、視線対策、通風を十分に検討する。
- 運動場とは別に小運動場、テニスコートを設ける。地上に計画できない場合は屋上運動場を検討する。
- 屋内・屋外運動場やプールを積極的に開放し、『地域のスポーツセンター』として運用する。
- 施設開放時の安全が確保されるセキュリティを配備する。



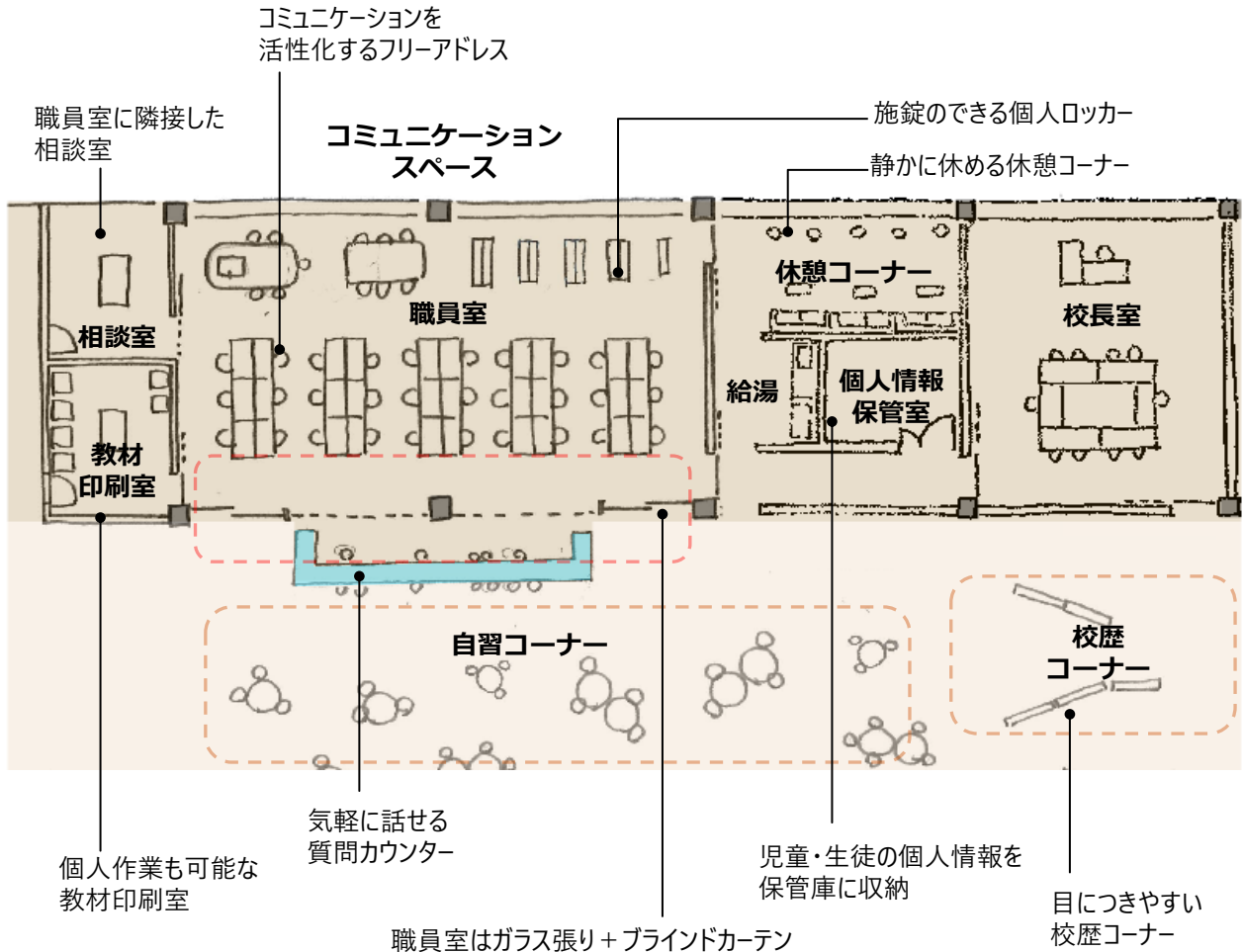
学校開放の活動写真 (左からフェンシング、ダンス、ポッチャの活動)

# 職員室

～チームで子供たちを支援し、情報共有する環境を整備～

## セキュリティを確保しながら、情報共有のためのコミュニケーションがとりやすい職員室

- 職員室に面して、児童・生徒と教員をつなげるカウンターに接する自習コーナーを設ける。
- 職員室の自習コーナーにカウンターを設け、児童・生徒の質問を受け個別指導ができる場をつくる。
- 職員室内に、気軽な打ち合わせや共同作業ができるコミュニケーションスペースをつくる。
- 自由に着席場所を選んで仕事をするフリーアドレスによって、教職員のコミュニケーションを促す。
- 児童・生徒の個人情報情報を収納するスペースを設ける。



職員室まわりのコミュニケーションスペースと質問カウンター、自習コーナー イメージスケッチ

